



図書館だより

1月号

令和6年1月23日
横浜市立山田小学校
司書教諭：齋藤裕美
学校司書：村山浩子

★毎月23日は市民読書の日。図書館だよりはその後発行しています。★

新しい本がはいりました



1月の図書館は利用する人がすこし増えてさみしい休み時間ですが、22日から新しい本の貸し出しがはじまりました。人気が集まってきた7冊（「魔入りました！入間くん⑤⑥」「ふしぎ駄菓子屋銭天堂⑱⑲」「歴史ゴーストバスターズ①」「十年屋⑦」「大ピンチすかん②」）はすでに予約抽せんがかわって2ばんめまで貸し出す順番がまわっていますが、ほかの本は自由に借りることができます。ポスターにどんな本があるかが書いてありますので、気になる本があったらぜひ見に来てください。

このあと、2月はじめまでには、今年注文したさいごの本と、つづきっ子読書応援団からいただいた本の手続きがすんでコーナーにならびます。おたのしみに。

図書館利用状況 1月9日～1月22日(10日間) ちょっと短めですが

来館者(休み時間) 279人 貸し出し数(授業中含む) 332冊【1日平均 28人/33冊】

今月のおすすめの本 『ゆずちゃん』 肥田美代子作 石倉欣二 絵 ポプラ社



29年前の1月17日、兵庫県南部おきた「阪神淡路大震災」では6000人をこえる人が命をおとしました。この絵本はその中の一人、小学生のゆずちゃんのお話です。

たいちくんは、よく笑うゆずちゃんが気になってしかたがありません。ときどきいじわるしてしまうのも、すきだから。

かぜをひいて5日間学校を休んでいたゆずちゃんが登校できるようになった日の明け方、神戸は震度7の大地震にみまわれ、たいちくんも大けがをしました。そして目をさましたとき、お母さんからゆずちゃんが亡くなったことを聞いたのでした…。

元日から、地震のニュースをみて、胸をいため、見るのがつらい人も多かったでしょう。でも亡くなったかたが〇〇人とひとくくりにかかれていない記事の中の一人ひとりに、将来の夢があり大切な人がいたことを思うことも大事なのではないかな、と表紙の明るい笑顔のゆずちゃんをみて思いました。よかったら手にとってみてください。

【表紙掲載許可の確認済み】

百人一首に親しもう



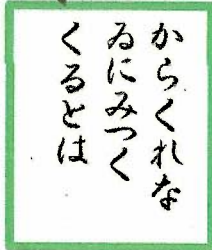
12月のお昼の放送で、「わたしの好きなもの・とくいなもの」という動画が流れていましたが、その中に「競技かるた」をやっているお友だちがいました。まんがの『ちはやふる』で知ったひともおおいかもしれませんが、スポーツのような運動神経と集中力が必要な競技です。いっぽう1月3日、京都の八坂神社では1000年前の平安時代の衣装をきた人たちが美しくかるたをとりあう「かるたはじめ」の行事がおこなわれます。はげしかったり優雅だったり、いろいろな面をもつ「百人一首」とはどんなものなのでしょうか。

【百人一首ってどんなもの?】



ふつうは百人一首といえば「小倉百人一首」という、今から800年も前の歌人、藤原定家（ふじわらさだいえ）が百人の人の歌をえらんで作った歌集をさします。えられた人は、今から約1400年～800年前のいろいろな時代のすぐれた歌人たち。有名な紫式部（むらさきしきぶ）もえられています。

【百人一首ってどうあそぶの?】



いま、私たちは31文字の歌を「五・七・五（上の句）七・七（下の句）にわけて下の句をとり札としてとる枚数をきそいます。歌をおぼえて上の句をよみあげているあいだに下の句をとるのがうまい人ですが、「おぼえられないよ～」という人にも楽しみ方がありますよ。



吉海直人監修 あかね書房

①競技かるた…50枚の取り札をつかってスピード勝負の対一個人戦

歌をおぼえ、札をおいたところをおぼえ上の句が読まれたらすばやく取る競技。ない札の歌もよまれるので、おてつき注意。ほとんどスポーツな気がします。

②源平合戦…100枚の取り札を50枚ずつ自分の向きにならべてチーム戦

自分の陣地（じんち）の札がなくなったら勝ち。あいて陣地の札を取ったら自分の札をわたし、おてつきをすると自分の陣地の札がふえます。チームワークをいかして作戦をたててのぞむといいです。

③ちらし…100枚の札をバラバラにおいて個人戦

いろいろな向きに札があるので、目がチカチカしますが、はじめてやる人はこれがおすすめ。自分がぜったいに取りたい札の場所はきちんとおぼえておこう。取った時の気持ちよさは最高です。



小宮孝之 近江利江著 向山洋一監修
ハラアツシ絵 汐文社

20枚づつにわけておぼえる。小学生むけの百人一首の解説本。4巻セットでそれぞれの巻にのっている解説も楽しいです。

④ぼうずめくり…おぼえていなくても運で勝つ!

絵が主役なので読み札だけをつかいます。（歌はいつでもよかったりする…）ところによってきまりはちがうようですが、まん中においたうらがえしの札を順番に一枚ずつひき「ぼうず」でたら全部まん中へもどし、姫がでたらそれをもたらるのは同じみたいです。おぼえていなくても楽しめる百人一首の入門あそびです。

子どものうちにおぼえて、すこし大人になって歌の意味もわかるようになると、また楽しさがふえてくる百人一首。一生たのしめる、日本がほこるゲームです。